

2013年4月16日

中日新聞19面にメディカルゾーン瑞浪店が
掲載されました

(第3種郵便物認可)

栄養管理、妊娠・授乳、がん…

薬局 広がる相談機能

薬局が多機能化している。日時を決めて管理栄養士が栄養相談に乗ったり、薬剤師が、がん患者や家族の相談を受け付けたり。専門家は「薬物療法が高度化する中で、相談機能を一層充実させる時期に来ている」と指摘する。(佐橋大)

浜松市天竜区の「くすり東海堂薬局」は、「よろず相談薬局」の看板を掲げている。相談は静岡県立静岡がんセンター(同県長泉町)と、同県薬剤師会の共同事業。がんセンターで研修を受けた薬剤師が、県内の薬局十五カ所、がんに関わる相談に乗っている。

抗がん剤の副作用や医療費の負担軽減の相談、さらには「病院で説明は受けたが、言葉が専門的でよく分からなかった。意味を教えてください」といった内容もある。

薬剤師の知識で対応できる質問は答え、それ以外は、がんセンターに転送する。太田勝啓さん(がんセンター)は「がんセンターから送られた、がん関連の冊子を店頭で手に取る太田勝啓さん」浜松市天竜区のくすり東海堂薬局で



がんセンターから送られた、がん関連の冊子を店頭で手に取る太田勝啓さん

健康を支える拠点に



の心配事を聞き、必要と判断すれば医療機関の受診を勧め、そうでなければ適切な市販薬を勧める。「昔から潜在的にしていたこと」といい、がんの「よろず相談」は、その機能に、さらに厚みを持たせる取り組みという。

「まちかど相談」に機能を付加する例は多い。愛知県では百八人の薬剤師が「妊娠・授乳サ

ポート薬剤師」として、各地の薬局で妊婦や授乳中の母親からの薬の相談に乗る。「禁煙支援薬剤師」(滋賀県)、健康食品などの相談を受ける「薬食同源情報サロン」(岐阜県)などもある。

三月に開店した岐阜県瑞浪市のトリーカ薬局メディカルゾーン瑞浪店では、毎月第四木曜日の午前、管理栄養士が来店者の栄養相談に応じる。調剤を中心にした薬局を愛知、岐阜両県で三十七店展開するトリーカメディカル(愛知県春日井市)が経営。松本成史社長は「ただ処方された薬を出すのではなく、薬剤師の専門性を生かして健康の相談に乗る。健康ステーション化したい。薬局の原点に戻る取り組み。栄養士の方に協力をいただいたのは、より専門的になっている顧客のニーズに応えるため」と狙いを語る。

メディカルゾーン瑞浪店の栄養相談は、原則予約制で参加費五百円。次回は二十五日、高血圧をテーマに開く。